「プーチンの過信、誤算と勝算　ロシアのウクライナ侵略」

2023年3月1日　小林

* 2022年8月発行、早稲田新書、早稲田大学出版。
* 著者は松島芳彦、1957年に生まれ、東京外大ロシア語卒。共同通信モスクワ支局長、編集論説委員。
* 本書は4章で構成されているが、今回は前半として1章と2章のみ以下に要約します。後半は次回の研究会でやります。

**まず、8年前のロシアのクリミヤ侵略を思い出そう。**

* 2013年11月21日、ウクライナのヤヌコビッチ大統領はEU との連合協定の締結を保留すると発表。ヤヌコビッチは親ロシア派の独裁者。前大統領が締結に向けてEUと交渉していた連合協定はついえた。
* 不正投票で政権についたヤヌコビッチに対して民主化運動が盛り上がった。民主化を求めキーウに数十万人の群衆が集まった。
* アメリカのバイデン副大統領（当時の大統領はオバマ）は何度もヤヌコビッチに電話を入れて群衆への武力制圧を思いとどまるようクギを刺した。
* 2月18日についにヤヌコビッチは武力行使を開始。民主化運動を武力で制圧しようとした。市民側と政府側双方で約100人の死者が出た。
* ポーランド外相、ドイツ外相、フランス外相が仲介に入り、当事者間で武力行使は停止するとの合意成立。そのうえで2014年12月までに再度、大統領選挙を実施することになった。
* しかしながら、キーウに集まった群衆は解散することはなかった。このような状況の中、ヤヌコビッチは合意成立の数時間後にキーウから逃げ出しロシアへ亡命した。民主化を求める群衆の勝利となった。
* ヤヌコビッチ逃亡によってできた権力の空白に付け込んで、ロシア軍はクリミア半島の重要施設を無血で制圧。クリミア半島でロシアへの帰属を問う住民投票が行われ圧倒的多数(96.6%)でロシアへの帰属が決定(2014年3月17日)。

**プーチンの視点**

* プーチンはヤヌコビッチ政権崩壊はアメリカが仕組んだクーデターと認識している。
* 事実、ウクライナの民主化団体にはアメリカ政府からの資金が入っていた。
* また、アメリカはウクライナの若者をアメリカに留学させて親米派を育てるということもやっていた。

**ウクライナ侵攻直前のプーチンの論文**

* 2021年11月ロシアは軍事演習と称してウクライナ国境近くに大部隊を集結。これに対しバイデン大統領はバーンズCIA長官をモスクワに派遣。バーンズ長官はプーチンとの面会を求めたがプーチンは面会を拒否。
* この直前2021年7月にプーチンは『ロシアとウクライナの一体性について』という論文を発表している。その内容は以下のとおり。
* ロシア、ベラルーシ、ウクライナは言語と宗教を絆とする古代ルーシ人の末裔であり、歴史的、精神的に一体である。一体だったものがその後の歴史で人為的に分断された。
* ウクライナは新興資本家と民族主義者、ネオナチによって駄目にされ、欧州の最貧国になってしまった。
* NATO はウクライナを取り込んでウクライナをロシア攻撃の前線基地に変えようとしている。
* ウクライナはロシア系住民の権利を侵害して同化政策を推進している。これはネオナチである。ロシア民族抹殺という新たなナチズムだ。
* ウクライナの完全な主権はロシアとのパートナー関係においてのみ可能と確信する。つまり、ウクライナはロシアの保護下に入るべきということ。ベラルーシのように。
* この論文から分かることは、プーチンは完全に主権を享受できる国(完全主権国家)とその保護下に入るべき弱小国家(不完全主権国家)があるという世界認識を持っているということ。
* つまり、ロシアは完全主権国家としてウクライナを保護するのが妥当。ウクライナはロシアの保護下に入って当然の不完全主権国家である。これがプーチンの世界認識。
* この世界認識からすると（恐らく）、日本はアメリカの保護下にある不完全主権国家でその不完全主権国家は完全主権国家であるロシアに北方領土返還を要求するのは僭越の極みである、ということになる。

**ウクライナ侵攻を目前にして**

* 2022年2月20日北京五輪閉幕の翌日、プーチンはテレビで長大な声明を読み上げた。その要旨は以下のとおり。
* ウクライナはロシアの伝統的な領土である。共産主義者がウクライナをロシアから切り離した。
* これまでウクライナは真の主権国家であったことはない。
* ウクライナのNATO 加盟は時間の問題である。NATO軍がロシアに迫ってきている。
* ロシア人が住むドネツク人民共和国とルガンスク人民共和国の独立を承認する。
* プーチンは侵攻当日の24日にも演説を行った。その要旨は以下のとおり。
* アメリカはNATO不拡大の約束を破った。（確かにアメリカは東西ドイツ統合に際し東ドイツより東にNATOを拡大しないと発言している。議事録あり。）
* アメリカと同様に、かつてヒトラーも約束を破った。1941年6月にヒトラーは不可侵条約を破ってソ連に侵攻した。
* われわれは同じ誤りを繰り返してはならない。（だから、ロシア防衛のためやむにやまれずウクライナに侵攻するのだ、ということ。）

**ウクライナ侵攻の歴史的な意味**

* なぜプーチンはウクライナに侵攻したのか。このロシアのウクライナ侵攻は三つの意味がある。
* 一つは、2014年のクリミア併合の第2段階という意味。クリミアだけでは不十分、ウクライナ全土を親ロシア派にしなければならない。
* 二つ目は1991年に起きたソ連崩壊の最終プロセスという意味。当時、国境確定の議論がきちんと行われなかったというプーチンの思い。だから、正しい国境線を引き直す。
* 三つ目は、かつての帝政ロシアの復活という意味。共産革命で帝政ロシアが崩壊するまで、ロシアは東欧から中央アジアまで支配する大帝国であった。

**プーチンの誤算**

* ウクライナ侵攻に当たりプーチンは四つの誤算をした。
* その一つは、軍事の素人であるゼレンスキーはロシア軍が攻め込んでくればすぐに逃げるだろうと思っていた。前大統領ヤヌコビッチは民主化を求める群衆を前に亡命した。
* 二つ目は、ウクライナ軍はロシア軍を見たら逃げるだろうと思っていた。
* 三つ目は、2022年2月24日のロシア侵攻の時にアメリカとイギリスはゼレンスキーにキーウから逃げるための移動手段を提供すると申し出た。これに対してゼレンスキーは「移動手段ではなく弾薬をくれ」と言った。首都にとどまるゼレンスキーの自撮り写真は、ウクライナ軍とウクライナ国民を勇気づけた。ここでプーチンの計画は大きく狂った。プーチンの描く短期決戦で首都陥落は不可能となった。
* 四つ目は、ロシア軍司令官が兵士に言っていたことが嘘だとバレたこと。ウクライナ国民はゼレンスキーのネオナチ政権を打倒するロシア軍を歓迎するだろうと。ところがそんなことは起きなかった。

**プーチンの言論統制**

* 起きたのはロシア軍によるウクライナ国民の虐殺。
* ロシア政府は虐殺をフェイクニュースと主張している。ロシア国営テレビは路上に転がる死体が立ち上がって歩き去っていく映像を作ってフェイクの証拠として放送した。
* ロシア政府はフェイクニュースを集めたウェブサイトを立ち上げて欧米のフェイクニュースにだまされるなと注意喚起している。
* プーチンが戦争と呼ばずに「特別軍事作戦」と呼ぶのは言論統制のため。一つは「戦争反対」と叫ぶロシア民衆を「戦争に関して虚偽の情報を流布する罪」で逮捕することができるから。つまり、戦争じゃないのに戦争という虚偽情報を流した。二つ目は、戦争だと政府は死傷者数の公表が義務付けられているが、「軍事作戦」ならばその義務はない。多大な死傷者数が出た場合、プーチンが批判される恐れあり。

**プーチン･ノート？**

* 2021年12月、大部隊をウクライナ国境近くに集結させるプーチンは、アメリカに条約案を提示している。内容は、①ウクライナの NATO 加盟を認めないこと、②NATO の東方拡大はしないこと、③NATO 軍の配備を1997年当時の状態に戻すこと。
* これはとてもアメリカがのめる内容ではないことは明白。当然アメリカはこれを拒否。プーチンはアメリカが拒否したので自衛のためやむを得ずウクライナに進攻したと主張。
* プーチンはドネツク、ルハンシクで内紛を抱えるウクライナがNATO 加盟条件を満たしていないことは当然承知していた。
* 80年前、米国務長官ハルも日本が満州を手放すとは思っていなかった。プーチンの提案はハルノートのようなものですね。

**なぜプーチンはウクライナ侵略を始めたのか？　大国と小国**

* 2002年、プーチンはルカシェンコ大統領にロシア･ベラルーシ統合を提案。ルカシェンコはこれを拒否。関係は悪化した。
* プーチンの歴史認識は、ロシアと白ロシア、小ロシアは昔は一体だった。白ロシアはベラルーシ、小ロシアはウクライナのこと。
* ルカシェンコの拒否にプーチンは怒ったが、すでにロシアの属国となっているベラルーシは許せる。しかし、ロシアから離れてNATO 加盟を狙うウクライナは許せない。
* プーチンの国家観はロシアは「大国」であるというもの。この大国意識がプーチンの国家観の根底にある。
* 大国は小国を保護するのが当然。小国は保護されているのだから主権を制約されても仕方がない。この意味でプーチンは日本を米国に保護される小国とみており、大国ロシアに対等の立場で領土返還交渉ができる国ではないと考えている。
* この大国意識は政治家プーチンの思考の根本にある。
* ちなみに、このような大国意識は「大東亜の盟主たるべき大日本帝国」と同じ。さらい言えば、習近平の「核心的利益」も同じ。中国の核心的利益のためには他国は主権が制約されてもしょうがない。自国中心主義。

**さて、10年以上前からアメリカとロシアのウクライナ争奪戦は続いています。**

* アメリカとロシアのウクライナ争奪戦は10年以上前から続いている。オバマ政権の時からアメリカはウクライナの民主化のためヤヌコビッチ政権に働きかけを行っていた。
* プーチンもウクライナをロシアの影響下につなぎとめておくため資金援助、外交努力をした。
* その一方で、プーチンはウクライナ東部ドンバス、ルハンシクの親ロシア派に武力支援をし、ロシア系住民とウクライナ系住民の武力紛争は激しさをましていった。
* この紛争は周辺国の仲介で2014年9月に休戦協定が締結された。ベラルーシの都市ミンスクで締結されたためこの休戦協定はミンスク1という。ロシア、ウクライナ、ドネツク人民共和国、ルハンシク人民共和国が調印。しかし双方の武力行使はやまなかった。
* 2015年2月、ドイツ、フランスの仲介でミンスク2が合意に達した。これも遵守されることはなかった。
* 2021年1月、バイデン大統領就任。1月26日プーチンと電話会談。バイデンはロシアによるアメリカ企業のハッキング、民主活動家ナワリヌイ氏毒殺未遂、タリバン関係組織に現地のアメリカ兵殺害を依頼したとの情報についてロシアを非難した。
* その直後の2月には、バイデンはロシアのクリミア併合についてロシアの責任を問い続けるとの声明を出した。
* 3月にはバイデンはナワリヌイ氏毒殺未遂を実行したのはロシア保安局FSB だと断定し、ロシア政府高官らを制裁の対象とした。ロシアは、これに対抗して駐米ロシア大使を一時帰国させた。
* 同月バイデン政権は、ロシア政府は大統領選挙に介入したとの報告書を発表。
* 2021年12月、ウクライナ国境近くにロシア軍の増強が続いた。
* これに対してバイデンは2022年初めにロシアはウクライナに侵攻するだろうと記者たちに語った。
* その後2月には、プーチンは侵攻を決断したと信じるに足る理由があるとバイデンは述べた。
* 2月22日に北京冬季五輪閉幕。24日にロシア侵攻開始。プーチンのウクライナ奪還の戦いは始まった。バイデンもウクライナを自由主義陣営にとどめるため4兆円にのぼる軍事援助をしている。1年たった今も戦争は続いています。

**プーチンはこの戦争で何を成し遂げたいのか。**

* プーチン政権は三つの期間に分けられる。
* 第一期は、大統領初当選の2000年から2008年。ソ連崩壊で混乱した政治と経済を安定させた。
* 第二期は、2008年から2012年。メドベージェフ大統領とプーチン首相の双頭体制。オバマ大統領と新戦略兵器削減条約、WTO 加盟でアメリカとロシアの関係は良好に転じていた。
* 第三期は、2012年から現在まで。プーチンが狙っているのは旧ソ連圏の復活と再編。この構想は2011年10月にイズベスチヤ紙に発表されたプーチンの論文に現れている。
* この論文では、ロシア、ベラルーシ、カザフスタンで構成するユーラシア経済共同体をウクライナも含めた経済政治統合体に進化させる構想が語られている。
* オバマ政権のヒラリー･クリントン国務長官は周辺国を再びソビエト連邦に再編する動きだと批判した。
* この構想で重要なのはウクライナである。ロシアにつぐ4500万人の人口を持ち同じスラブ民族の国、スラブの兄弟国である。
* ちなみに、世界の人口ランキンでロシアは11位、ウクライナは56位。なお、GDPランキングで見ると、ロシアは韓国の一つ下。韓国の人口5130万人に対してロシアの人口は1億4580万人。ロシアの国民一人当たりのGDPは韓国の三分の一程度。
* プーチンはロシアをどういう国にしたいのか？　ウクライナをどうしたいのか？

**ここでまた少し歴史を見てみましょう。**

* 2010年のウクライナ大統領選挙では、新ロシア派のヤヌコビッチが当選。クリミア半島南端にあるセバストポリ港のロシア海軍による使用を2042年まで延長に合意。見返りとしてロシアからの天然ガスの価格を30％値引きしてもらった。
* ヤヌコビッチ大統領は前政権からEU 加盟の方針を引き継いだため、ロシアとの関係は良好に維持したい一方で経済ではEU へ接近するという又裂き状態になった。
* 2011年12月、ここでヤヌコビッチは前大統領ティモシェンコを職権濫用罪で投獄。プーチンはティモシェンコと個人的に友好関係にあったので激怒。
* 欧米諸国は人権侵害だとして非難した。
* 2012年、プーチンはヤヌコビッチにロシアが主導する関税同盟への加入を迫ったが、ウクライナはオブザーバーに参加するのみとなった。（一帯一路のようなもの）
* 2013年8月にはプーチンはヤヌコビッチにウクライナ産品に品質上の問題があるとい言いがかりをつけ、ほぼ全ての輸入品目を禁輸とした。
* 2013年11月、プーチンはヤヌコビッチを取り込むため、150億ドルの経済支援と天然ガスの大幅値下げを提示。ヤヌコビッチはこれを受け入れ、ロシアへ傾斜していった。
* これに反発したウクライナ国民は、2014年2月21日、ヤヌコビッチ退陣を求める大規模デモをキーウで行った。民主化、自由化を叫ぶ群衆を前にヤヌコビッチはキーウから逃げ出しロシアに亡命。
* この政権の空白を突いてロシアはクリミア半島を占領。

**プーチンの頭の中をのぞくと・・・**

* プーチンによれば、ロシア人は世界最大の分断民族である。クリミアにはロシア人が多数住んでいる。クリミアは歴史的にロシアの領土である。これを正当に取り戻しただけ。
* 1954年、フルシチョフ書記長は当時ロシア領であったクリミアをウクライナに編入した。これは、ドニエプル川からクリミア半島に水道を引くためには水源から蛇口まで同一の国家の管理のもとに置くほうが効率的であったため。プーチンはこの編入は誤りであったと主張している。今回のクリミア奪還で誤りは正された。
* なお、ソ連崩壊の時に当時のエリチン･ロシア大統領はクラフチュク･ウクライナ大統領にクリミアはウクライナ領のままでよいと認めている。プーチンはこれも誤りだったと主張している。しかし、エリチン大統領のとき、プーチンはエリチンにつぐNo.2の首相の地位にいた。

討議事項

①以上でプーチンがウクライナ侵攻を始めるまでの政治的な動き（歴史）を見てきましたが、佐々木さんのご感想は？

②仮定の話になりますが、どうしたらプーチンのウクライナ侵攻を思い止まらせることができたと思いますか？　言い換えれば、この歴史から学ぶべき教訓はなんだと思いますか？

以上